

## がん化学療法処方

プロトコール名: 濾胞性リンパ腫 G-Benda療法(C1)(1クール28日)  
(下に実際の投与方法を記載)

投与日	薬品名	投与経路	投与時間
d1	① デキサート注射液6.6mg+生理食塩液50mL	div	15分
	② 生理食塩液 50mL(フラッシュ用)	div	5分
	③ ガザイバ点滴静注 1000mg+生理食塩液210mL <初回投与时> 投与速度12.5mL/hで開始, 毒性が認められなければ 30分毎に12.5mL/hずつ増量(最大100mL/h) 0.2又は0.22 $\mu$ mのインラインフィルターを使用 点滴開始30分前までにカロナール錠500mg2錠とレスタミン錠10mg5錠内服 全量250mLに合わせる。	div	255分
	④ 生理食塩液 50mL(フラッシュ用)	div	5分
	⑤ パロノセトロン静注0.75mg+生理食塩液50mL	div	15分
	⑥ トレアキシシン点滴静注90mg/m <sup>2</sup> +生理食塩液500mL 生食で全量500mLとなるように調製する。 調製後6時間以内に投与を終了する。	div	60分
	⑦ 生理食塩液 50mL(フラッシュ用)	div	5分
d2	① デキサート注射液6.6mg+生理食塩液50mL	div	15分
	② トレアキシシン点滴静注90mg/m <sup>2</sup> +生理食塩液500mL 生食で全量500mLとなるように調製する。 調製後6時間以内に投与を終了する。	div	60分
	③ 生理食塩液 50mL(フラッシュ用)	div	5分
d8,15	① デキサート注射液6.6mg+生理食塩液50mL	div	15分
	② 生理食塩液 50mL(フラッシュ用)	div	5分
	③ ガザイバ点滴静注 1000mg+生理食塩液210mL <前回投与でgrade2以上のinfusion reactionが出現しなかった時> 投与速度25mL/hで開始, 毒性が認められなければ 30分毎に25mL/hずつ増量(最大100mL/h) ※前回投与時にgrade2以上のinfusion reaction出現時には初回投与に準ずる 0.2又は0.22 $\mu$ mのインラインフィルターを使用 点滴開始30分前までにカロナール錠500mg2錠とレスタミン錠10mg5錠内服 全量250mLに合わせる。	div	195分
	④ 生理食塩液 50mL(フラッシュ用)	div	5分
d1	アプレピタントカプセル 125mg 抗がん薬投与の1時間~1時間半前に内服	p.o.	
d1,8,15	カロナール錠500mg 2錠 レスタミンコーワ錠10mg5錠	p.o.	

プロトコール適応時表示コメント

day2,3にアプレピタント80mg内服。ガザイバ点滴開始30分前までにカロナール錠1000mgとレスタミン錠50mg内服。6コースまで。

照射併用時照射線量

グレイ (備考欄)